

経営講座

「新：高知県で儲かる会社を創る方法」

第7回テーマ 戦術の重要性「瓦で食器を作って業績がV字回復した例」

今回は、戦術の重要性「瓦で食器を作って業績がV字回復した例」の説明をさせて頂くが、高知県の瓦屋も廃業した例が多い。瓦製造業だけでなく、高知県の製造業者等の皆様も是非ともこの成功例をヒントに頑張ってください。要は、自社の技術を発展分野に使うことである。その為には、自社の業種を限定して考えてはダメである。！！

1) 当時の環境（瓦を使う家が少なくなり、石州瓦の需要も激減、売上半減）

島根県浜田市は粘土瓦の産地、作られる石州瓦は日本三大瓦。100年以上もつ理由は窯。高温で焼き赤みがかかった硬い瓦ができる。

しかし瓦を使う家が少なくなり、石州瓦の需要も激減、売上はピーク時の半分となった。このままではジリ貧で将来性は全くない状態だった。

2) 成功した環境適応勝利戦略（脱サラ婿養子の瓦職人が策定・実践）

「瓦製造技術の瓦以外への転用」戦略

瓦職人の亀谷典生さんはワケありの九代目、脱サラ婿養子職人。妻の実家は創業210年の亀谷窯業。このままでは廃業も考えないとダメなので、瓦以外のものを作る戦略を策定。

3) その戦略を成功させる為の勝利戦術（脱サラ婿養子の瓦職人が策定・実践）

「冷めにくい瓦食器」戦術（鉄よりも肉が冷めにくい瓦食器）

この瓦食器の特徴は、鉄よりも肉が冷めにくいこと。これが大きい。冷めた肉は食べられない。これはロッチャドオーロ神楽坂で使われている。

4) 成果（ジリ貧事業が将来性がある事業にV字回復）

亀谷さんは瓦から瓦食器をつくり業績がV字回復。ジリ貧事業から将来性がある事業に変わった。

5) 成功要因（自社の技術を発展分野に使ったこと）

この事例も自社の特徴がある瓦製造技術を成長分野である食器に使ったことが成功要因である。

6) 著者より一言（高知の瓦屋さんも、他の製造業等も出来る。）

高知県も多くの瓦屋が廃業しているが、発想の転換からの脱皮は出来なかったのか？今からでもできないのか？他の製造業も出来る。高知の企業頑張れ！

この戦術を考えるときには、自社の業種を限定して考えてはダメである。！！

例) 今月の例→×瓦製造業と考えないで、○瓦製造技術による何でも製造業と考えること。

< 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎（ぬたはら・あつお） >